

ふりがな付き例文集 目次

- 一 上棟式祝詞
- 八 神実様鎮座祭祭文
- 九 家地鎮祭及び起工式祝詞
家神実様遷座祭祭文
- 十九 家神実様遷座祭祭文
- 二十二 金婚式祭文
- 二十三 結婚式祭文
- 二十四 結婚誓詞
- 二十九 商店新築落成式祝詞
- 三十一 七五三祝祭文
- 三十四 お宮詣り祭文
- 四十一 成人式祭文
- 四十四 家大祓祭詞
- 五十一 遷霊祓詞
- 五十二 遷霊祭詞(布教所長)
- 五十五 発葬祭詞
- 五十七 誄詞
- 六十四 男子厄払い詞
- 七十七 合祀祭文(布教所長)
- 八十三 墓標建立墓前祭
- 八十八 神殿起工式祓詞
- 一〇七 降神之詞
- 一〇八 昇神之詞
- 一一一 鎮霊詞(若年者)
- 一一四 火葬場祭詞
- 一一五 葬後祭並に十日祭詞
- 一一八 埋葬祭詞
- 一二五 夫婦年祭後墓前祭
- 一二六 五十日祭合祀祭
- 一二七 五十日祭
- 一三二 夫婦合同年祭2
- 一三四 秋季大祭
- 一四四 講社祭一六八

一 上棟式祝詞

これの神籠に招ぎ奉り令坐奉る 掛巻も畏き親神天理王
命の御前に慎しみ敬い恐み恐みも白さく

親神の広き厚き御恵みを嬉しび奉り辱けなみ奉りて 天理
教 分教会はも既設の境内建物は平屋建でありし

かも狭く且つ老朽化せし為 これより後の教会内容の充実
を期し地下に駐車場を設け 地上に木造亜鉛メッキ鋼板
板葺式階建なる 神殿兼教職舎を境内地一杯に新たに設
け奉らむと一同心を一つにして御願に及びしが 去る

月 日 鮮やかに御本部より理の御許しを戴き 引続き
月 日 明るく厳かに地鎮祭並に起工式を執り
行いたり

その後の工程は渉外的な事情によりやや延びしが工事
関係者一人ひとりの並々ならぬ努力のお陰で漸く棟木取り
上げむばかりに成りたるを以て 今日を生日の足日と上棟
の儀式執り行わむと御前に御酒御食海川山野の種々の味物
を置き高成して捧げ奉らくを甘らに安らかに聞食し諾ひ給
いて 道の子達が諸手に取る綱根の只一筋に曳き上げ奉る
棟木の緩みなくやがて取付けむ桁梁の損い動く事無く守り
幸え給い 豫め定めたる設計のまにく平けく安けく竣功
えしめ給い 併せて形のふしんに伴い 心のふしんの成果も
ひときわ高く大きく拳げしめ給い ひいては思召下さる
世界一列兄弟姉妹の陽氣ふしんに正しくつながらしめ給いと
一同と共に恐み恐みも乞い祈み奉らくと白す

八 神実様鎮座祭祭文

これの神床を清らかに払い清めて今し厳かにお鎮め申し上げました
くにとこたちのみこと をもたりのみこと くにさづちのみこと 月よみ
のみこと くもよみのみこと かしこねのみこと たいしよく天のみこと
をふとのべのみこといざなぎのみこと いざなみのみことなる
親神天理王命の御前に天理教 分教会長 慎んで申し
上げます

親神様には私達人間の上に片時の休みもなく親心深くお働き下され
お陰で毎日明るく陽気に暮らさせて頂き誠に感謝の念に堪えません
殊には 夫婦は 人の可愛い男の子に恵まれ 生業
の道も極めて順調で去る 月末 市 区 丁目 番
号なるこの土地に新築されたこの家屋に引越され 既に大祓の御式も
済ませて頂きました

この上は親神様の大恩は申すまでもなく 御両親のご恩にも深く感謝
し 更に今後は一層教祖の御教を心の定規とし ひながたを身近に拜
し 夫婦共々一段と心の成人を期すると共に 人生の真のあり方を広
く世の人々にも移していきたいと念願し 溢れる喜びの下 この月の
日の吉き日 神実様を只今鎮座させて頂きました

講名を 講と名付けましたが これより後は更にかしものかり
ものの理を心に強く治め ひのきしんの実践に励み なるほどの家庭
を目指し 旬々の御用の上にも心の限り力の限りつとめさせて頂きました
いとお誓い下されておりますが これの講社を拠点としてなされるたすけ
一条の道の上には珍しい不思議なご守護を賜り 尚これの周辺に
思召し下さる陽気ぐらしの実が次々と拡がって参りますようお導きの
程 一同と共に慎んでお願い申し上げます

九〇〇家地鎮祭及び起工式祝詞

此の所に忌竹さし立て標縄引き延え神籠立てて招ぎ奉り令せ
奉る掛巻も畏き親神天理王命の御前に恐み恐みも白さく
親神の広き厚き御恵みを嬉しび奉り辱けなみ奉りて △△
出張所なる〇〇家はも生業の道もいと順調に夫婦心を一つに
合わせ子達□人も健やかに 教会より程近きメゾンホール△番
館に長年朝な夕な明るく暮らされしが この度旬満ちてこれの
市 町 番
平方米なる敷地に
平方米なる住宅を

木造コロニアル葺二階建一棟

平方米なる住宅を

建設株式会社の設計施工のもとに設け奉らむと 今し大地の

高き低きを曳きならし 御柱が根の礎を底つ石根に築き固め

むととして 今日の日々の足日に地鎮祭と共に起工の御式仕

え奉らむとし 御酒御食海川山野の種々の味物を捧げ奉りて

拝がみ奉らくを平らけく安らけく諾い聞き食して 工事に親し

む人々の身に怪我過ち無く美わしく竣工しめ給い やがてこの

住居に寄り集う家族親族はもとより〇〇家の一人ひとり身も

心も壮健に相和し相助け合うて これの所より陽氣ぐらしの

実を示しつつ 上り坂を辿らるると共に 底つ石根の極み 下つ

綱根の限り波布虫の禍いなく由留岐害うことなく 工事費の

月々の支払いも見事に終え 千代万代に堅磐に常磐に守り幸

え給えと恐み恐みも乞い祈み奉らくと白す

十九 ○○家神実様遷座祭祭文

これの神床を清らかに払い清めて今し厳かにお遷し申しお鎮め申しました親神天理王命の御前に慎んで申し上げます

親神様には朝な夕な私達子供の上に親心深くお働き下され洵に感謝の念に堪えません

殊には長い間静かなで講社祭をされておりました

夫妻は勤務先の変更からこれの市なるに移転され

幸い夫婦共々教壇に立つという御守護に浴し漸く生活も落

ち着いて参りましたのでお二人の結ばれた○○日を記念し

今日の吉き日の今宵元一日を振り返り新たな門出をすべく

神実様を只今遷座し鎮座させて頂いたのでございます

教え導く生徒達は均しく親神様の可愛い我が子であり相互

は国境も民族も越えて睦み合うべき兄弟姉妹であって而も皆

神様の懐ろ住いをしており陽気遊山の世界づくりを目指さね

ばならないという人生の基本姿勢を自覚し親の道を子が通り

上流が下流に及ぶという天然自然の理を忘れずひたすら自

らの心の成人を期して参りますが同時に成程の理は八方と

いうと仰せられたお言葉通り信仰を通じて培われた誠の道

成程の道が職場や地域社会に溢れ出て神名を称える陽気

ぐらしの輪が年限と共に広く大きく拡がって参りますようお

導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

二十二 金婚式祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教
分教会長 慎んで申し上げます

真珠湾攻撃が火蓋となった大東亜戦争勃発の翌年の秋即ち昭和十七
年十月二十日 本部からお許しを頂いたばかりの神奈川の些かな

の御神前で初代会長 夫妻が仲人となり 当時

歳の 氏と 歳になる 姉との結婚式が 厳かに而

もなごやかに執り行われました

その後 お二人は厳しい戦争下仲睦まじく励まし合って 新婚早々の

月日を重ねられている中 長女 を授かり 又日本にとって未曾有

の敗戦の大混乱の中 次女 引き続いて長男 が与えられ

何時しか月移り年去りて早くも半世紀が過ぎ 今日の茲にお二人と

も元気で芽出度く金婚式を迎えられました これ偏に親神様のこよな

く温かき大恩 又月日のやしろ ひながたの親と拝ぐ教祖の御教えの

賜物であり の歴史と共に歩まれた霊様方の御指導と この

参拝場にお座り頂く皆様方の真実のお力添えのお陰であり 誠に

感謝の念に堪えません

今は孫達もそれぐ立派に成人され幸せな高齢者夫婦としてひたすら

労わり合い慰め合い又救け合って思召に近い陽気づくめの月日を送り

迎えられておりますが 九十歳となっても尚前向きで たすけ一条の道

を貫かれた教祖を改めて身近に求め 数知れない恵みを受けている

地域社会にも酬い切れるよう 一日生涯の喜び一杯で今後の人生を

歩んで頂きたいと思っております どうか親神様倍旧の親心をもってお

二人の将来を充分にお導き下さいますよう 一同と共に慎んでお願

い申し上げます

二十三 結婚式祭文

この神床に目標としてお鎮まり下さいます 親神天理王命の

御前に主礼 慎んで申し上げます

この度 の長男 は親神様の不思議なお働きにより
の次女 と縁談相整い 夫妻を媒酌人として

今日の吉き日御前に参出て婚姻の式を執り行わせて頂く事
に相成りましたのでこの由を申し上げ只今より教祖の御前でお
流れを戴き 契りの盃を取り交わさせて頂きます

このよのぢいとてんとをかたどりて ふうふをこしらえきたる
でな これハこのよのはじめだし

と朝な夕な唱和させて頂いて居りますが 夫は大地を包む
大空のように 妻は万物を生み育てる大地のようであれとお教
え下されております

二人は今日を人生の新たな門出として 常に親神様の御教を
羅針盤とし どんな中も明るく通られた教祖を身近に拝し 互い
に信じ合い 扶け合い なるほどの人 なくてはならぬ人を目指
したすけ 一条の道を力強く辿り 思召下さる陽氣遊山の世界
づくりの一翼を精一杯担って参りたいと心を定めておりますが
何卒親神様には松の緑の色濃く 吳竹の操正しく 梅の八千代
の春を重ねて 香わしく 玉の緒の命長く 久しく 変ることなく
成人の道をお連れ通り 下さいますよう 一同と共に慎んで
御願い申し上げます

二十四 結婚誓詞

この度 親神様の不思議なお働きにより 私達二人は
只今契りの杯をいただき 生涯夫婦としての固めをさせて頂
きました事を 深く厚く御礼申し上げます

ふたりの心を治めいよ 何かの事をも現われる

と仰せいただきますが 今より後 改めて親神様の御教を
人生行路の羅針盤とし 教祖のひながたを辿り 両親を始

め周囲の方々に喜んで頂けるようつとめ 二つ一つの心を持
つて どんな節からも鮮やかな芽を出し 世の為人の為力の
限りつくさせて頂く決心でございます

何卒親神様の広く温かい親心に かくお誓い申し上げる
私達二人の門出の真心を充分にお受取り下され 共に
白髪をいただくまで 松の緑の色変わりなく末広がりの
人生をお与え頂けますようお導きの程を

新郎

新婦

慎んでお願い申し上げます

二十九 商店新築落成式祝詞

掛け巻くも畏き親神天理王命の御前に慎しみ敬い恐み恐みも
白さく

この度 市 区 丁目 番地 号なる〇〇講は

親神の奇しく妙なる御恵みを嬉しみ奉り辱けなみ奉りて 長

の年月に亘るこれのお道の信仰も慚く稔り なお又家族親族

諸人達の真心からなる親心に支えられ 商店としての

家業も日に月に栄ゆく中 今までの店のあり様にてはあらゆる

点にて不都合となりし為 こゝに建築主を 氏と定め

一同相謀り鉄骨 階建 延 平方米となる普請を

工業株式会社の施工のもと 新たに設け奉らんと事始められ

しが 工事順序正しく滞うる事なく彌進みに進みて 今し斯

くの状に事成し終えたるは これ偏に親神の深く厚い手引きと

普請に携われし諸人達の真剣なる努力の賜物なり

こゝを以て今日を生日の足日と新築落成の儀式執り行うと

先ず事の由を告げ奉らくを 御前に御酒御食海川山野の種々

の味物を置き享成して捧げ奉らくを 甘らに安らに聞食し諾い

給いて 今日の竣工を新たな門出として元一日の心にかえり

親神の御教のまに 教祖のひながたを辿りつつ いやよく

一手一つとなりて新たな姿形にふさわしく家業の道に努め勞づ

き はた又この建物の中にて営まれる事務所の仕事の成果を

挙げんものと努め励む心定めなれば 行末の日と月が重なるに

つれ彌繁昌に栄えしめ給い 今日の落成の意義を高からしめ給

えと恐み恐みも乞い祈み奉らくと白す

三十一 七五三祝祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教

分教会長

慎んで申し上げます

この度親神様の広大無辺なお働きにより

の長女 は 七歳

の長男 は 五歳

の三女 は 三歳

になり 今日(きょう)のよき日(ひ) 七五三(しちごさん)の御祝(ごいわい)の日(ひ)を迎えさせて頂きまし
た

お陰様(かげさま)で毎日(まいにち)明るく元気(げんき)に飛び回(まわ)っており その成長(せいちょう)ぶりを眺め
両親(りやうしん)を始め(はじめ)一同(いっどう)こよなき幸せ(しあわせ)を味わ(あじ)わって下さ(くだ)っております

思え(おも)ば私達(わたくしたち)がぐっすり寝込(ねこ)んでいる間(あいだ)も 温み(ぬく)み水気(すいき)五分(ごぶ)五分(ごぶ)の
御守護(ごしゅご)に浴(よ)し つく息(いき)ひく息(いき)など片時(かたとき)の休み(やす)みもなく体(からだ)の隅々(すみずみ)まで

お見守り(みまも)り下さ(くだ)っている賜物(たまもの)であり 誠に(まこと)御礼(おんれい)の言葉(ことば)もございませ
この上(あ)は我が子(こ)といえども その実(じつ)は親神様(おやがみさま)の可愛(かわ)い子供(こども)をお預(あず)

りしているという自覚(じかく)と責任(せきにん)を改めて心(こころ)に治(おさ)め 陽気遊山(やうきゆうざん)の世界(せかい)
づくりという親神様(おやがみさま)の人類創造(じんるいそんぞう)の思召(おほしめし)に添(そ)って 今(いま)後は一層(いっそう)世(よ)

為人(ためひと)の為(ため)に精一杯(せいいつぱい)の真実(しんじつ)を傾(かたむ)けて参(ま)りますがどうか親神様(おやがみさま)には先(なま)

になり後(あと)になり いよく親心(おやこころ)深くお連れ通(とお)り下さ(くだ)ると共に(とも) 今日(きょう)
の喜び(よろこ)びを持場立場(たもちたて)を通(とお)し 広く地域社会(ちいきしゃかい)の人々(ひとびと)に移(うつ)せませう
お導(みちび)きの程(ほど)を一同(いっどう)と共に慎(つつ)んでお願い(ねが)い申し上(あ)げます

三十四 お宮詣り祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天
理教 分教会長 慎んで申し上げます

たいないゑやどしこむのも月日なり

むまれだすのも月日せわどり

と仰せ下さいましたが この度親神様の不思議なご守護によ
り 平成 年 月 日 父 母

の長男

が明るい元気な産声を挙げてこの世に

生を享けさせて頂きました

お陰様で母子共々壮健であり産後の日経ちも順調で

今日は早や一ヶ月の日数を経過しましたので只今より 厚

く御礼申し上げます 親神様の御前にお宮詣りをして下

さいました

この上はこの深い親心にこたえ かしものかりものの教えを

一層強く心に治め 親の道子が通る という厳粛な因縁

一条の流れを自覚し 両親はもとより一同もひたすら 心

の成人につとめさせて頂きますから 親神様も の上

には限りないお恵みをおかけ下され 世界たすけのお道の

子供として将又有為なる社会の子供として 充分に長命の

理と末長い多幸の人生をお与え下さいますよう慎んでお願

い申し上げます

四十一 成人式祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天

理教 分教会長

慎んで申し上げます

親神様の深く温かい親心に生かされ守られ お陰様で

は二十年の歳月を送り迎え 今年芽出度く成人式を迎

えさせて頂きました。厚く御礼申し上げます

茲に改めて『身はかりもの 心一つが我がのもの』と仰せ下

されたお言葉を味わい親神様の大恩を忘れず 常に『ひな

がたの道』を身近に拝し 手塩にかけて下された両親を始

め先輩の皆様方に充分安心して頂けるよう ひたすら心の

ふしんにつとめたいと決意いたしております

ここに一人前の大人として社会の荒波に船出したとは云え

人生の嵐は時として強く それに引き替え船の舵を取る

手は弱く その為に幾度か苦難の節が訪れてくることと思ひ

ますが その都度 正しい羅針盤を見つめ直して持場立場

を通し勇んで前進させて頂きますから 親神様にはこれから

後も 先になり後になって御慈悲深くお連れ通り下され

陽氣遊山の世界づくりに充分役立ちますようお導きの程を

慎んで御願ひ申し上げます

四十四 ○○家大祓祭詞

此の所に神籠立てて招ぎ奉り令坐奉る掛け巻くも畏
き親神天理王命の御前に恐み恐みも白さく

親神の広き厚き御恵みを嬉しび奉り辱けなみ奉り

家はも朝な夕ないと睦じく明るく暮らされ

生業の道も極めて順調に営まれしが お陰様でここ

市 区 丁目 番 号なる宅地

平方米の上に新しく建てられし木造カラーベスト

コロナ葺二階建サイディングボード外壁

平方米なる住宅を求められ 今日を生日の足日と大祓

の御祭仕え奉り 御酒御食味物を捧げ奉りて拜み奉ら

くを諾い聞食し給い これより後も幾久しく家族親族

共々身も心も壮健に起き伏し給わむ事はしもとより

雨風の難み天災地変の災あらむにも揺ぎ損なわるる

事なく波布虫の禍あらしめ給わず 千代万代に堅磐に

常磐に守り幸い給い それぐが埃を払い心を澄まし

持場立場を通し更に世の為人の為につとめ労かむとす

る 家の陽気ぐらしの姿を周囲の社会に次々と

移し給えと恐み恐みも乞い祈み奉らくと白す

五十一 祓詞

掛卷くも畏き親神天理王命の宇豆の御前に恐み
恐みも白さく

今し故天理教△△分教会○代会長△△△△大人
の遷霊 爰葬の業に仕え奉る教人信者又家族
親族諸人等が意わずも犯しけむ心違に 又見触
れ聞き触れけむ埃等のあらむおば 朝の御霧夕の
御霧を朝風夕風の吹きはらす事が如く麻のさやぎ
のさやさやに祓い給い清め給いて斎員等もろもろ手
のまがい足のまがいあらしめ給わず遷霊爰葬の業、
元来たがわず美わしく仕え終えしめ給えと恐み恐
みも白す

五十二 遷靈祭詞（布教所長）

あな悲しあな淋しあな悼ましきかも故天理教△△△布教所長△△
△△大人御遺骸の御前に慎しみ敬い歎かいて白さく
あわれ汝大人はや遂にかしものかりものの現身を脱ぎ捨てて長の
年月住み慣れし懐かしきこれの現世より口惜しくも出直しましけ
り
百年千年の年を重ねて世の永人長人の名を負い給わむ事をし
家族親族は更なり汝大人を知る諸人達も常に頼しみ思いつつあり
しを 厳しき寒さの冬も去り漸く麗らかなる春を迎えしこの○月
体に異状を覚えられ程近き△△△病院に入院されしが 幸いに
も手厚き医療の甲斐ありて温かき我が家に退院されたり 汝大人
は既に昨年○月には古稀の祝も済まされし後 半生ながら今暫く
は老後の楽しみを子供達と共に十分味わわれむ事をしひたすら願
いてありけるを 去る○月○日再入院の止むなきに至り結果は
予想を超えた身の衰え強く 俄かに朝を迎え夕を過ごす力も尽き
果てこの年この月○日午後○時半御病改まり○○歳というを生き
の涯りと親神のふところの中とは云いながら遠く遙けき旅路に出
立ち給いぬ あな悲しあなくやし 然はあれども今更に限りある人
の力の得て及ぶべきにあらず 遺れる家族親族並に諸人等謀り定
めて定まれる式のまにまに歎かい悲しみつつも 今宵しも遷靈の
典儀厳かに仕え奉らむとする由を甘らに安らに聞食し諾い給いて
汝が靈はし新たに造り備えるこれの靈代に静けく穩にしばし遷り
留まり坐せと恐み恐みも白す

五十五 発葬祭詞

この小床を仮の喪屋と齋い定めて暫し置き据え安め奉る故天理教△△布教所長△△△△大人の御柩の御前に慎しみ敬い歎かいて白さく

久方の空行く月の清き光りにも立迷う浮雲の障りあるが如く春山に咲き乱れる花の梢にも吹き荒ぶ嵐の嘆きある如くあわれ汝大人はもかりものという世の慣い得免がれ給わずまだ心残れるこれの現世を退向になされしは悲しども悲し口惜しきども口惜しき限りにぞある

汝大人はや日本海を臨む若狭湾岸の静かなる街○○で産声を挙げられ多くの家族達の温かい心に育まれしが学舎に入られし頃はいより風雲急を告げ支那事変より大東亜戦争に至る疾風怒濤の時代を少年期に経験されたり終戦後程なく△△商店に勤め勞づく兄と共に働く身となられしが

いち早く世界一列兄弟姉妹の陽気ぐらしをひたすら望まれる親神の御教えに触れ人生の眞のあり方を学ばむものと親里ぢばにて三ヶ月の修養に励まれたり程なく親神の奇しき御働きならむ同じ故郷

○○で育ちし故△△刀自と婚姻の晴れやかな御式を挙げられその後はブロック工事を専業としつつ多くの子宝孫達にも恵まれ些かながら年毎に幸せ多き家庭を築かれたりやがてここ○○市の周り

に「かしものかりものの自覚」「神のふところ住まいの有難さ」から進る心の成人を促し互い立って合い助け合いのこの世にいささか乍ら資せむものと昭和○○年布教所開設の意義深き旬を迎えられ

るに至るその後妻△△刀自は進んで家政婦となられ病床に悩み苦しむ人々への看護に明け暮れされる身となりしが俄かに重い御病に伏され遂に平成○年五月予想だにせぬ來世に向かつて早くも

門出されたりそれから今日に至る三年半男やもめの淋しさを越え遺れる子達孫達への妻の愛情に代らむものと尚又たすけ一条の道の上にも努力に努力を重ねられしにああ空蟬は術なきものか

俄かに汝大人も又厳しき御病の床に釘付けとなり遂に親神に祈りし甲斐もなく医師の業も尽き果ててこの年この月○日午後○時半を生きの限りとして逝く水の還らぬ如く入る月の影消ゆるが如く

俄に朝露のごと夕露のごと果なく出直し坐しつるは云わむ術為む術知らに今更に夢に夢見る心持なむあわれ悲しきかもあわれ悔しきかも

今日よりは汝大人の言葉聞けずやなりけむ明日よりは優しき御姿永久に見えずやなりけむと雨雲の空かき曇る心地なもするを身退かりし人の蘇るべくもあらず今は一世の終の式儀仕え奉り

て永き別れを告げ奉らくを平らげく安けく諾い給いて我が親神の思恵を思い頼み百足らず八十の限路を迷う事なく唯一筋に親神のふところに行き奉りて遺れる家族親族たちを己が向々

あらしめ給わず清きあかいき心もてそれぐの立場つとめに勞つき奉らしめ給い汝が遺骸は千代の住所と定め奉れる奥つ城所に平らかに安らかに出て立ち給い汝大人は再び新しき着物を召され

ていち早くこれの世に出直し給えと遺されし功績に深く感謝しつつ露けき袖の涙をはらい慎しみ敬いて白す

五十七 詠詞

これの小床を飯の喪屋と齋い定めて暫時置き据え安め奉る故△△△△大人の靈の御前に慎み歎かいて白さく
あわれ現世の人の世は果なく定め難きものとは知りつれど汝大人の昨日に変わる今日の御姿を見奉りては誰かは驚き嘆かざらむ
汝大人は日本海に臨む○○の港に生を亨けられ 春秋に富む弱十六才にして京都なる 呉服問屋に就職され 程なくその輸送部の勤務としてここ横浜に出られしが 何時しか年月は流れて五十有余年を経したり その間に関東大震災を味われ或いは又二人の我が子△△大人△△大人を失われ事は長い一生の最も厳しきふしにしあらむ されどこれ等のふしにもめげず何時までも若い人の如き熱も勢も七転八起の店の経営に身を挺し只管メリヤスや布地などの商業もて人世の為にいたづき前世よりの深き因縁に引き誘われ家の内の大いなる波風を見て後は只一条にふしから芽を出すことの望みに胸をふくらませ 底つくさんげの道を加えつつ修養科 講習などの学会に身を置き親神の御教えに耳を傾け 教祖九十年のしんどの中にある実を学び遂には△△分教会の二代会長となり後 半生をたすけ一条に男の眞実をそそぐべくようやくその途上につかれしが ゆきりなくも重き御病に見舞われ給い遂には去る九月の初め○○療養所に入院されたり ここを以て親族家族心を揃えて只管親神に乞い祈み奉りその心の立替成人を期せしがその甲斐もなく医師の業もすべて尽き果てて この年この月○日齡七十一才を生きの涯りと逝く水の還らぬ如く入る月の影消ゆるが如く惣ちに朝露のごと夕露のごと果なく出直し坐しつるは云わむ術為む術知らに今更に夢に夢見る心持なむあわれ悲しきかもあわれ悔しきかも
今日より後はその明るい御声に接すること叶わず いそぐとこまめに立ち働かれし御姿を眼の当たりにするすべもなし さわあれど二人の女子達もそれぞれ学び舎を終え最早自らの力もて人の世に首途する順序もつき大人がこの世の仕事も殆ど完成されたり 今は現世の定めと限りしあれば明日を御葬の日と齋い定めて今宵しもこれの靈舎に齋い奉り鎮め奉り御前に御酒御食種々の味つ物を捧げ奉りて拝み奉らくを甘らに安らに聞食し諾ひ給いて 今より後これの△△分教会に打群れ集う道の子たちを始め○○家につながる親族家族の守護神として鎮まり坐し 汝大人は暫し親神のふところに安らに抱かれ給いやがては身も心も健やかに再びこれが世に出直さん事と深く心に祈り 更には又上級○○分教会誕生のつゆ払いとなり先導となられし大人が生涯のいさおしを真心もて感謝しつつ恐み恐みも白す

六十四 男子厄払い詞

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天
理教 分教会長 慎んで申し上げます

この 県 市 町 番地に住まわれ

る 氏は親神様の広く高い親心に生かされ守られて
かしものの体を今日まで壮健にお貸し頂き 両親も健在で
家内や子供達にも恵まれ 何不自由なく日々を陽気に過ご
させて頂く事が出来 まことに感謝の念に堪えません

今年は四十二歳となり世に云う厄年を迎えましたので只今
から厄払いのお式をつとめさせて頂く次第でございます
厄年は壮年期の更に成熟に向かう脱皮の旬であり 一つのふ
しであると悟り お言葉通りふしから芽を出すべく 現在の
置かれた自らの役目に一層の眞実を傾けると共に 進んで
は社会のため 又家族のためにはたはたを樂させるはたらきを
増して 一段と価値の高いお役がとまりますよう 自らの埃
を払い、心の成人に励みたいと存じますが 何卒打ち払う
麻のさやぎのさやさやに清々しく被い清めて 恙なく喜びに明
け喜びに暮れる厄年を通して頂けますよう 本人に代わり
慎んでお願い申し上げます

七十七 合祀祭文（布教所長）

これの〇〇分教会の靈代に只今嚴かにお鎮まり下さいました故天
理教〇〇布教所長△△△△大人の靈の御前に天理教 分教会
長 慎んで申し上げます

あわれ汝大人は去る 月 日午後 時ゆくりなくも〇〇
歳にて俄に出直されましたことは 思えばやはり悲しく淋しい限り
でございます

さはあれ人間というは身の内神のかしものかりものなれば生きるも
出直すも親神様の妙なる御支配であり なってくる一切はむしろ
大難でも小難にお見せ頂き 尚又救きたい上からの親心 深い
思召しの現れとお教え頂いておりますから 徒に歎き悲しむとい
うよりも 本当は御礼申し上げるべきものと 家人達は 後々の
成人を謀りつ、朝夕ねんごろにお任せされて参りましたが 今宵
懐かしき汝大人を この教会にもお鎮め申し上げ 現世にあり
し頃の笑ましき面影を偲び 優しく清かりし御心をたゝえ 長の
年月に亘る御功績に厚く感謝申し上げたいと存じます

どうかこれから先々汝大人との縁につながる子達孫達 ご生前のあ
の日この時を味わいつ、改めて心にかげられし〇〇布教所の伸展
を力強く計って参りますが 汝大人はよりよき来世を樂しみつ、
陽氣遊山の世界づくりに一層お勇み立たれますよう 一同と共に
慎んでお願い申し上げます

八十三 墓標建立墓前祭

これの所を千代の住所と永久に変わる事無く 動く事無く安
く穏にありし日の古き衣を鎮め奉り坐せ奉る昭和 年

月 日八十歳を以て逝かれし故△△△△△△大人を始め

昭和 年 月 日三十歳の世帯盛りに身退りし

故△△△△刀自 同じ年 月 日いと短きつばみの一才に

て あっけなくこの世を去られし故△△若子の御墓の御前に

慎み敬い恐み恐みも白す

汝が大人たちの家族親族を始め 相識れる人親しき人々

長男○○氏の家庭に相寄り集い 現世の在りし日の俤を

偲びつ、 どやありけむ かくやありけむとどりの話の花

を咲かせつ、 厳かに靈祭を仕え奉りしが 今し墓標建立

の儀式を併せてつとめ奉らくと 打ち揃いてこれの御墓に足

を運び 除幕の儀こゝに恙なく仕え終え 海川山野の種々

の味物を捧げ奉り拝み奉らくを甘らに聞食し諾い給いて

いよく家門を守り負持つ祖先の名を高めんものと それ

ぐに固く心を定め相誓える様を 御心持美わしく受け給

い 遺れる家族親族を始め御子たちの行く末を天翔り玉翔

り守り幸い給い 思召される陽氣ぐらしのひながた家庭を

周囲の社会にうつし給えと 恐み恐みも白す

八十八 神殿起工式祓詞

之の處に日室木立て親神天理王命を遙かに伏し拝み謹んで申し上げます

今日のこの日は天理教△△分教会神殿建築の事始めの佳き日に当たりますので只今より定めめの儀式を執り行わせて頂きます

何卒親神様にはこれの教会長を始め役員部内教会長用木信者亦工事関係者一同の眞実をお受け取り下さいまして滞りなく祭儀を勤め了へさせて頂きます様 謹んでお願い申し上げます

一〇七 降神之詞

掛卷くも畏き親神天理王命 しばし此
れの神籬に來格座し坐せと 恐み恐みも
白す

一〇八 昇神之詞

此れの神籬に招ぎ奉り坐せ奉る親神
天理王命 元の御座に還り鎮まり坐せと
恐みくも白す

一一一 鎮靈詞（若年者）

この小床を飯の靈舎と天つ管曾の清々しく被い清めて 今し鎮め奉り齋い奉る
故△△△△大人の靈の御前に慎しみ敬い歎かいて白さく
空蟬の人の世は果敢なく定め難きものにして我がものと思ふこの身一つさえかし
ものかりものとは知りつれど 親神は現世での陽氣ぐらしを目標とされ 尚
百十五歳を定め命と約束されてありしを 汝大人の昨日に変わる今日の
御姿を見奉りては誰かは驚き嘆かざらむなどてこれの世を退向になしてかく
はあわただしくも出直しまし、ぞ あな悲しあな悔し 今は早や汝大人の笑まし
き面影を見る能わず ああ汝大人の若く明るき御声に再び触れることなし 思
い返せば汝大人はや幸少なき身としてこの世に生まれ出で給いしが 祖父母が親
の代わりとなりてむしろ温かき懐のまに、く育ち給いき 冷たき世の嵐は
直接幼き汝大人にはかゝらざりしならむ 伸びくと思ふがまゝに若さの喜びと
夢をはぐくみつゝ、人となり給わむ 良き兄代り姉代りの兄弟姉妹の真心を受け
しならむ などて未だ蕾のまゝ、二十五才というをこの世の涯りとして御空を渡る
さやけき月の影わずかの雲井にさえ打消ゆるが如く たゞ独り淋しく親神のふと
ころに身退りししぞ 悲しとも悲しく口惜しとも口惜しき極みになむ 然はあれ
ども現世に生まれ出づるも出直すも事ごとに親神の御量にしあれば 今更に歎
き悲しむとも効無きことて 明日を御葬の日と齋い定めて 今宵しも新靈をこ
れの靈代に齋い奉り鎮め奉らくを 今ゆ後これの〇〇家はもとより縁ある家族
親族 更に△△△講につながる道の子たちを八十連綿五十彊八桑枝の如く
向坂に立ち栄えしめ給えと露けき袖の涙をしぼりつゝ、恐みくも白す

一一四 火葬場祭詞

言ふも悲しく思えば涙ぐましき故天理教〇〇分教会〇代
会長△△△△大人の御柩の御前に白さく

あわれ汝大人はや世の遠人永人と思ほせどもこの年〇月〇

〇日おたすけの帰り道にて俄に倒れられ救急車にて〇〇
病院に入院されしが遂に意識も回復することなくいと

安らかに身退り坐しけるは誰やし人が思い奉りしか さわれ
云うて帰らず 思うも甲斐なし

されど病床にありて些かも苦しみの表情なく 痛みを訴えら
れし事の無かりしは実に親神の温かき親心ならむ あ、最後

のお別れの玉串捧げ奉らくを平けく安らげく聞食して
御遺骸はこれの火葬の場に御供仕え奉り 空しき烟と成さ

しめ奉らむとす

御遺骸は鑄に収めて一時大人の衣の住所ともなりつらむ

あ、この状を甘らに安らに聞食し諾い給いていきどおり給う
事なく淀み給う事なく 御霊は正しく親神のふところに抱

かれ給いて 現世の家族親族諸人等を夜の守り日の守りに
恵まい幸え給えと露けき袖の涙をしぼりつ、 慎み敬い恐

みくも白す

一一五 葬後祭並に十日祭詞

これみたましろの靈代いに齋さだい定めて令坐ませ奉り鎮め奉る故もとの天理教〇〇分
教会〇代會長△△△△大人つしの御靈みたまの御前みまえに慎み敬つついて白まおさ
く

あわれ汝なが大人うしはや久方ひさかたの空行そらいく月の清きよき明あかき御心みこころに よく
御教みおしえの蘊奥おくがを極まめ 常つねに己おのが己おのんねんの自覚じかくを強つよめ おた
すけに励はげみ 家族親族うかりはもとより道みちの子たちこの上うへに心こころを注そそ
ぎその成人せいじんを心掛こころがけ 自みづからは教祖おややまひながたの道みちを見つめて
忠実まめにいそしく己おのが務つとめを重いかしみ仕つかえ奉りてありけるを
果敢はかなくもこたび出直でなおし坐ましつるは夢ゆめに夢ゆめみる心持こころもちになむ
今尚いまなお何処どこへにか在いますが如ごとく思おもほゆるも あ、今いまは矢張やはり呼よべ
ど答こたえはなく見渡みわたせど御姿みすがたはあらず 心こころは千々ちぢに碎くだけていと淋さび
しき中なかに今いまは葬後はぶりのあとの御祭みまつりに併あわせて十日とつかの御祭みまつり仕つかえ奉る時ときと
はなりむ

汝大人ながの面影おもかげを浮うかべ 在いませし世よの事ことどもとりどりに語かたり合あい
てあの日ひこの時ときの功績いさおしを偲しのび奉り 教祖おややま年祭ねんさいを目指めざして
汝大人ながが心こころにかゝる教会きょうかい内容ないようの充実じゅうじつを計はかり 併あわせて
大教だいき会かい移転いってん神しん殿でん普請ふしんに精せい一杯いっぱいの真実しんじつの伏ふせ込こみを誓ちかいつ、
かくの如ごとく拝あがみ仕つかえ奉る状まはを聞食きんじくし諾うない給たまいて御子みこを始はじ
め道みちの子供達こどもたち一同いっとうを彌次つぎ々と向榮むけいに幸さいわえ恵めぐみ給たまえと恐かしこみ
くも白まおす

これの所を暫し住所と安く穩にその衣を遷し奉り鎮め奉る
故△△△△大人の御墓の御前に慎み敬い恐みくも白す
先程汝大人の家族親族を始めて その縁につながる親しき
人々相寄り集い 現世にありし日の壮健なる俤を偲び 明
るき笑顔を思い起こしつ、 あの日この時の事などとりどり
の花を咲かせ 厳かに五十日の靈祭を仕え奉りしが 今し
諸人たち打ち揃いて この御墓所に歩を運び 御遺骸を
納め奉りて種々の味物を捧げ奉り 拜み奉らくを甘らに安
らに聞食し諾い給いて 汝大人が真心をかけて開かれし△△
△布教所の充実を期し いよく親神の御教を体し ひな
がたの道を身近に拝して明るく勇みて一日々々を送り迎え
負持つ祖先の名を高めむものと それぞれ固く心を定め相
誓える態を御心持美わしく受け給い 遺れる子たち孫たち
の行末を見守りつ、 汝大人はまた新しき衣を召され い
ち早くこれの世に出直され 次の世こそ一層の長き命を賞
でつ、 人救いの道 生業の道も更に勢もて押し進められ
る共に 汝大人自身が思召される陽氣ぐらしの実を 家族
親族また世の諸人と共により永くより深く楽しまれ給えと
恐みくも白す

一二五 夫婦年祭後墓前祭

これの所に御生前の衣を厳かにお鎮めさせて頂きました天理教○○
布教所前所長故○○○○大人並びに夫人△△刀自の御墓の御前に慎ん
で申し上げます

汝大人達が遺された家族親族又懐かしい人達と共に 先程○○分教会の
御霊の御前で 心を籠めて一年祭並びに五年祭をつとめさせて頂きまし
たが 只今は一同この御墓の御前に打寄り集い ○○大人の七十年及び
△△刀自の六十五年に亘る御在世中のあの日この時を思い浮べ 健やかな
りし頃の面影を瞼に描き 昔話にとりどりの花を咲かせておりますが
生涯を一日の如く貫かれました真面目な御働き 今更の如く深く感謝せ
ずにはおられません

その上から この御前にとりどりの味物を御供申し 次々と玉串をとり
つ、これより後も一同心を合せ 御在世中に遺された話の種や道すがら
を改めて深く味わい生かしつつ、いよく○○家の家門を守り 負持つ祖先
の名を高むるはもとより 一人々々が持場立場を通し一層世の為人の為に
真心の限りを捧げ 更に真実の神名を流し 人の世の正しいあり方をまわ
りの人々に取次ぎ ひたすらたすけ一条の道を力強く押し進めむものを
固く心に誓い 深々と御礼と決意の頭を下げ 厳かに墓前の御祭を仕え
させて頂いておりますが 汝大人達は親神様の御恵みのまに 古
着物を脱いで新しい着物とお着替え下された来世はよりよきよふぼくと
りて世界のふしんの上に今生以上のお働きをされますよう 尚又 送り
迎えされる一日々々を今生以上に長く楽しく幸せにお通り下さいますよ
う一同と共に慎んでお祈り申し上げます

一二六 五十日祭合祀祭

此の小床を被い清めて今し祖靈社に遷し奉り鎮め奉る故△△△△刀自の御霊の御前に 天理教

分教会長

慎み敬い恐みくも白さく

青空を行く麗かなる陽の光にも 俄に黒雲が蔽いて 厳しき雨風に変わるが如く 秋の野山を飾る紅葉の美わしさにも吹き荒ぶ嵐の嘆きあるが如く あわれ汝刀自はも現身の慣い得免がれ給わずして 九十五歳という長寿ながらこれの現世を退向になして 覆水盆に返らずの言葉の如く果敢なく来世に隠り給いぬ 今も尚現世に壮健に立ち働きて何処にか在すが如く思ほゆるも 矢張り呼べどもその答はなく 戸の外に出でて見渡せどその御姿はあらず 誠に云わぬ術為す術なし 限なき月影を見ればありし日を偲び さ、やかなる風の音を聞けば つとめ勞かれし長の年月を思い起こしつ、露に花咲く志草 忘る、日なく偲び出でぬ時なく 早くも五十日は夢の間と過ぎ去りて あわれ淋しき中にも今し合祀の御祭に併せて五十日の靈祭かくの如く仕え奉る時となりけり 故に家族親族相識れる人々 これの席に打寄り集い 汝刀自より耳にせし語り草たる琵琶湖の辺なる田舎での幼き頃 あるいはその度毎眼を細めていと懐かしげなる面持を見せられし中国は漢口での初婚の頃 また△△△△氏と再婚されし後 長の年月山形なる△町にて幾多の風雪をしのぎ山坂を踏み越えられし中年の頃 次いで西武△ヶ丘の程近き入間市〇〇なるこれの自宅にて静かに老いの身を預けられし晩年の頃など 日を追い月を追いて汝刀自の面影を思い浮かべ瞼に描きとりどりの話の花を咲かせつ、心より御霊を宇良賀志奉らくと 御前に御酒御食種々の味物を供え奉りて 露の玉串捧げ奉り拜み奉らくを平けく安けく聞食し諾い給い 引き続き遺れる家族親族たちが真心を籠めてこの程購われし千代の住所と定め奉れる新しき御墓所に 汝刀自の御遺骸を納め奉る御墓の御祭仕え奉らんとす 時にいとしき汝刀自が娘婿であり 眼に入れても痛くなき可愛い孫たちの父親なる△△△△大人が今を去る八年前未だ若き五十五歳ながら一足先に親神のふところに帰り給い その衣を〇〇分教会の御墓に暫しお鎮め申し 時機の到るを待ち望みてありしが この旬に汝刀自と共に埋葬の御祭を執り行い 母子の契りを更に深めんとす 故にこの態を甘らに安らに聞食し これより後汝刀自が幾多の節又節の中些かも挫けることなく生涯を貫かれ その姿を〇子△子の二人に移されしお道の信仰を末代かけて守り抜かれ 思召下さる陽氣ぐらしの人の世が これの地上に見えてくると共に 天翔り国翔り〇〇家△△家を始めとして その縁深き人々を幸く真幸く恵み幸え給えと恐みくも白す

一二七 五十日祭

これの仮かりの小床おどこの靈代みたましろに暫しばしお鎮しずまり下さいます天理教〇〇分教会初代
会長故△△△△刀自とじの靈みたまの前に天理教 分教会長 慎つしん
で申もうし上げます

久方ひさかたの空行からいく月のさやかな光ひかりにも 立ち迷まよう浮雲うきぐもの障さわりがある如ごとくいつま
でも健すこやかに明あかるくお暮くらし頂いたきたいと 心こころより願ねがっておりましたのに 汝なが
刀自とじは去さる一月三日齡よわい九五歳の長命ながきいのちながら 入はいる月の影かげ消けえるが如ごとく
はかなくも現身うつしみを隠かくされてしまいました 夜空よぞらにかゝる月影つきかげを見ては あり
し日の笑顔えがおを思おもい浮うかべ 懐なつかかしき面影おもかげを睨まがたに画えがいておられますが 早はやや
五十日ごじゅうにちの月日つきひが夢ゆめの間に過すぎ 今宵こよひ茲こゝに靈祭みたままつりをつとめさせて頂いたく日ひと相あい
成なりました 御前おんまえに汝なが刀自とじの家族親族かぞくしんぞく又親またしき人々ひとびと寄り集つどい 改あらめてご
生前せいぜんの道みちすがらをあれこれと語かたり合あい 共に喜よろこび共に涙なみだした 昔いにしえをそれぞ
れ偲しのんでおります

改あらめて思おもい返かえせば 四十年よんじゅうねんと雖いえどもも言葉ことばではほんの一言ひとことで終おわりますが
人一倍ひとはい案あんじられた可弱かよわい体からだの頃ころから それこそ白髪はくはつの高齡者こうれいものとなつても尚なお
毎年まいねんの元旦がんたんから大晦日おおみそかに至いたる吹雪ふぶきの舞まう酷寒こつかんの朝あさも 裾すそまでずぶ濡ぬれ
のどしやぶりの雨あめの夜よも親神様おやがみさま教祖おやさまを念頭ねんとうから放はなさず こゝ〇〇から△△へ
のだらく坂さかを登のぼり降りして よくぞ一日いちにちも欠かかさず上級じょうきゅう△△分教会へ
の日参にじさんをお続つづけ下さいました 前日ぜんじつは今年の初風呂はつふうろに身みを清きよめ 夕食ゆうじよくを
済すまして来世つぎのよへ門出かどでされた見事みごとな花道はなみちは 葬儀そうぎにお出掛でかけ下くだされた方々かたがたか
ら一様いちように「大往生だいおつじょうですネ 私わたしもあやかりたい」の声こゑとなつておりました
心配しんぱいされた墓地ぼんちの話はなしも恙つつがなく治おさまり 近く埋葬祭まいそうまつりの日ひとなりますが今宵こよひの
五十日祭ごじゅうにちまつりの御前みまえにとりどりの品々しなじなをお供しなえさせて頂いたき 一人ひとりひとりが心こころを
籠こめて伏ふし拜おろがむ姿すがたを御覽ごらん下さいまして 汝なが刀自とじはよりよき来世つぎのよをお迎むか
え下さると共に 天翔あまかけり国翔くにかけり先さきになり後あとになり〇〇家はもとより〇〇分
教会きょうかいに縁深えにしふかき人々ひとびとを夜よの守まもり日ひの守まもりにお見守みまもり下くだされ 尚なおまた又それぞれ
の持場立もちばたて場ば場ばを通とおして世界せかいのふしんの榮はえあるよふぼくとなりますようお導みちび
きの程ほどを一同いちどうと共に慎つしんでお願いねがい申まうし上げます

一三二 夫婦合同年祭2

これの小床を靈代に齋い定めて令坐奉り置き据え奉る天理教〇〇分教会
初代会長故△△△△刀自並びに二代會長故〇〇〇〇〇〇大人の御靈の御前
に天理教 分教会長 慎しみ敬い告げ白さく

今は早くも一年並びに五年の年うつり月代わりて五穀豊穰の秋深き今日
この頃となりしがかくて家族親族寄り集い汝が刀自汝が大人への面影を
浮かべ在せし世の事どもとりどり相語り合いて数々の尽せぬ思い出を御前
に繰り広げつ、今し御酒御食海川山野の種々の味物を捧げ奉りて茲に
一年並びに五年の靈祭 仕え奉る日となりぬ

今も尚現世に壮健に立ち働きて何処にか在すが如く思ほゆるも 矢張り
呼べどもその答はなく 戸の外に出でて見渡せど その御姿はあらず 誠
に云わぬ術 為す術なきも あの日の頃の功績を偲び奉りて 懐かしき
心些かも消えず この席に侍れるものみな古を慕う心いよいよ募るばかりなり

つらつらに顧み思えば 汝が刀自並びに汝が大人の現世に坐しける頃は
二人の男の子たちに恵まれ世の交際も疎かならず 家の業に一途につと
め勞かれ 家庭も常に円満に祖先の名を汚すことなく忠実に己が務を
重しみ仕え奉り その後打ち続く節に見舞われてよりは ひとすら親神の
御声にすがり 教祖ひながたを見つめ たすけ一条の日々を明け暮れされ
たり

旬来たりて遂に〇〇の名称の創立となり ささやかな教会なりしがその
初代並びに二代會長となり なつてもならいでもの眞実に燃えて陽氣ぐらし
の道を辿られつ、ありしを 重き御病の憂瀨に沈み給いて〇〇〇〇〇〇大人は昭
和四十一年〇月〇日 齢七十才を以て △△刀自は昭和四十四年〇月〇
日六十八才を以て此の世を出直し坐しけるは誠に口惜しき限りなむ
こ、に靈祭を厳かに仕へ奉らくを甘らに安らに聞し食し 諾い給いて今ゆ
後これの席に列なる各もくの家毎を天翔り 国翔り見守り給い これの
教会につながる道の子始め子孫の八十連綿五十彊八桑枝の如く向榮に立
ち榮えしめ給えと 笑ましき姿を偲びつ、恐みくも白す

一三四 秋季大祭

この名称の理にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教分教会長 慎んで申し上げます

親神様には深い親心の上から いろくど心の成人への道をお連れ通り下され 日々は届かぬ乍らも栄えある世界のふしんのよふぼくとしてお使い頂き 洵に感謝の念に堪えませぬ

中にもこの十月二十六日は 教祖魂のいんねん やしきのいんねん・旬刻限の理により 親神様直々の最後の教が垂示された元一日に当たりますので 御本部では立教一六△年の秋季大祭がつとめられますが その理を受け て只今からこの教会の秋季大祭を明るく勇んでつとめさせて頂きます

茲に改めて立教の元一日は 教祖を通し「世界一列をたすけるために天降った」であり “だんく”とよふぼくにてはこのよふをはじめたをやがみ な入りこむで “ ” このようをはじめたをやが入り込めば どんなことをもする

やしれんで “どのお言葉通り 将来の陽気世界を目指し 世界中の多くの人々の中から一日早くこのお道にお引き寄せ下された私達よふぼくはその使命の重さを一段と強く自覚し 先ずは周囲の人々の身近な心の

闇路にたすけの手を伸ばすべく一手一つに歩ませて頂いておりますが いよいよ来春三月〇〇日にはこれの教会の創立〇〇年をお迎えさせて頂きま す かかる意義深い時句を臨む今日の大祭を通し 改めてその活動目標

たる “「教祖伝」を熟読し 真の親心を学ぼう “ 教会の創立記念祭に向って一日一枚のパンフレット配りの実現 “をそれぞれの心に体し 混迷を深める今日の世界に真の親を知らせ 真の親の働きを教えて

一列を澄ます努力を重ねて参りますが 親神様には私達の馳せ巡る先々に不思議々々の理が現われ 地域社会に思召下さる神人和楽 親子団欒の陽気ぐらしの輪が更に広く大きく拡がって参りますようお導き

の程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

一四四 講社祭一六八

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に

慎ん

で申し上げます

” 月日にはにんげんはじめかけたのは よふきゆさんがみたいゆへから “

と仰せ下さいましたが 私達は早くから栄えある” 月日のやしろ “であり

” ひながたの親 “なる教祖の道具衆としてお引き寄せ頂き 洵に感謝の

念に堪えません

その中にも今日の吉き日はこれの

の月次祭の日柄に当たります

ので 只今から一手一つに勇んで陽氣づとめを勤めさせて頂きます

さて 去る十月の秋季大祭に於いて真柱様は 教祖百二十年祭の仕上げの

年を迎えるに当たり ” このお道が迫害や干渉の無い往還道に出られたと

は云え それだけに救け一条に對する氣のゆるみや停滞が懸念される 一つの

日か親神様のお望みになる世界一列の陽氣ぐらしを必ず実現するのだとい

う強い信念を固め 一歩一歩足元から陽氣ぐらしの輪を拡げていくことが

肝心である “と申され 仕上げの年を歩む決意と態勢をお示し下さいまし

た

” いつもたすけをせくからに はやくよふきになりてこい “

と仰せられた教祖のお言葉を味わいつ、

一、おかきさげの精神に戻り親心を深く悟ろう！

一、かぐらづとめの信仰を芯におぢばへおぢばへと向おう！

を今年の合言葉として いよいよ成人の道に拍車を掛けて参りますがどうか

親神様には思召し通りの陽氣ぐらしの輪が 更に広く大きく私達の周辺

に拡がって参りますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

ます